

# 第1章 はじめに

---

## 1.1 計画改定の背景

近年、多くの地域で断層型などの大きささまざまな地震が頻発しています。尾張旭市（以下「本市」という。）においては、東海・東南海・南海地震三連動地震の発生、猿投-高浜断層帯地震（内陸型地震）、さらに南海トラフ地震による地震被害を受ける可能性が高い地域となっています。

平成17年3月に中央防災会議で策定された「東海・東南海・南海地震に関する地震防災戦略」では、今後10年間で死者数及び経済被害額を被害想定から半減させるという目標を達成するため、住宅・建築物の耐震化が最も重要な課題とし、緊急かつ最優先に取り組むべきものとするとともに、今後10年間で住宅の耐震化率90%を目指すこととされました。また、平成17年9月の「建築物の耐震化緊急対策方針」（中央防災会議）では、全国的に取り組むべき社会全体の国家的な緊急課題として、建築物の耐震化が位置づけられました。その目標を達成するため、平成18年1月に「建築物の耐震改修の促進に関する法律」（以下「耐震改修促進法」という。）の改正が行われ、「建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための基本的な方針（平成18年1月25日国土交通省告示、最終改正：平成30年12月21日国土交通省告示）」（以下「国の基本方針」という。）が示されました。

これらを受け、愛知県では、平成19年3月に「愛知県建築物耐震改修促進計画（あいち建築耐震プラン2015）」を策定し、平成27年度までに住宅及び建築物の耐震化率を90%とする目標が掲げられました。本市においても、平成20年3月に「尾張旭市建築物耐震改修促進計画」（以下「本計画」という。）を策定し、平成27年度までに住宅及び建築物の耐震化率90%を目標に、耐震化の促進に取り組んできました。

その後、平成22年6月に閣議決定された「新成長戦略」で、令和2年度までに住宅の耐震化率を95%にすることが目標とされるなか、平成23年3月に東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生しました。それまで予測しなかった複数のプレートが連動した巨大地震による甚大な被害の発生を受けて、平成24年8月中央防災会議において、新たに南海トラフに沿った複数のプレートが連動して発生する南海トラフ地震の被害想定が発表されました。

それに伴い、愛知県では、県域に最も影響の大きいケースとして同地震の発生を想定した対策が検討されました。また、平成24年3月に新たな地震アクションプランとして耐震化率95%を目標とした「愛知県建築物耐震改修促進計画（あいち建築減災プラン2020）」を策定、平成25年11月の改正耐震改修促進法施行を踏まえ、平成26年3月に計画の一部を改定しました。

しかし、令和2年度の目標値が達成できない状況にあり、現状の問題点を踏まえてさらなる耐震化の取り組みを進める必要があることから、新たな「愛知県建築物耐震改修促進計画（あいち建築減災プラン2030）」（以下「減災プラン2030」という。）を策定しています。

本市においては、先に述べたとおり、平成20年3月に本計画を策定、平成28年3月に一部を改定し、住宅の耐震化を図ってきましたが、国や愛知県において令和7年までに耐震化率95%、令和12年までに耐震性が不十分な住宅を概ね解消することが目標とされたことや減災の考え方が示されたことなどを踏まえ、新たに本計画の見直しを行うこととします。また、耐震化が必要な建物の把握と耐震化の状況を確認しつつ、「尾張旭市地域防災計画」及び「尾張旭市国土強靱化地域計画」との整合性を図りながら、建築物の耐震化のみならず人的被害の低減など減災の視点も取り入れた計画を策定します。

【近年発生した大規模地震と建築物の耐震改修に係る動向】

主な大規模地震	建築物の耐震改修に係る動向
<p>●兵庫県南部地震 [阪神・淡路大震災] 平成7年1月17日 (M7.3、直下型) 死者：6,434人、行方不明者：3人 負傷者：43,792人 住家被害合計：639,686棟</p> <p>●新潟県中越地震 平成16年10月23日 (M6.8、直下型) 死者：68人、行方不明者：0人 負傷者：4,805人 住家被害合計：121,900棟</p> <p>●福岡県西方沖地震 平成17年3月20日 (M7.0、直下型) 死者：1人、行方不明者：0人 負傷者：1,087人 住家被害合計：8,997棟</p> <p>●能登半島地震 平成19年3月25日 (M6.9、直下型) 死者：1人、行方不明者：0人 負傷者：356人 住家被害合計：29,352棟</p> <p>●新潟県中越沖地震 平成19年7月16日 (M6.8、直下型) 死者：15人、行方不明者：0人 負傷者：2,345人 住家被害合計：42,010棟</p>	<p>■「建築物の耐震改修の促進に関する法律（耐震改修促進法）」の施行（平成7年12月）</p> <p>■住宅・建築物の地震防災推進会議の設置（平成17年2月）</p> <p>■中央防災会議「東海・東南海・南海地震に関する地震防災戦略」決定（平成17年3月） ・今後10年間で東海地震等の死者数及び経済被害を半減させることを目標</p> <p>■中央防災会議「建築物の耐震化緊急対策方針」決定（平成17年9月） ・建築物の耐震化について、社会全体の国家的な緊急課題として全国的に緊急かつ強力に実施</p> <p>■特別国会「改正耐震改修促進法」の成立（平成17年10月）</p> <p>■「改正耐震改修促進法」の公布（平成17年11月）</p> <p>■「建築物の耐震診断及び耐震改修の促進を図るための基本的な方針（国の基本方針）」等の公布（平成18年1月）</p> <p>■「改正耐震改修促進法」の施行（平成18年1月）</p> <p>■「愛知県建築物耐震改修促進計画（あいち建築耐震プラン2015）」策定（平成19年3月）</p> <p>■「尾張旭市建築物耐震改修促進計画」策定（平成20年3月）</p>

●東北地方太平洋沖地震 [東日本大震災]  
平成 23 年 3 月 11 日 (M9.0、海溝型)  
死者：19,335 人、行方不明者：2,600 人  
負傷者：6,219 人  
住家被害合計：1,178,233 棟  
※平成 27 年 9 月 9 日現在消防庁災害対策本  
部発表第 152 報より

●熊本県熊本地方を震源とする地震  
平成 28 年 4 月 14 日 (M6.5、横ずれ断層型)  
死者：273 人  
負傷者：2,809 人  
住家被害合計：206,886 棟  
※平成 31 年 4 月 12 日現在消防庁応急対策室  
第 121 報より

●大阪府北部を震源とする地震  
平成 30 年 6 月 18 日発生 (M6.1、逆断層及び  
横ずれ断層型)  
死者：6 人  
負傷者：462 人  
住家被害合計：61,776 棟  
※令和元年 8 月 20 日現在消防庁応急対策室  
発表第 32 報より

●平成 30 年北海道胆振東部地震  
平成 30 年 9 月 6 日発生 (M6.7、逆断層型)  
死者：43 人  
負傷者：782 人  
住家被害合計：15,978 棟  
※令和元年 8 月 20 日現在消防庁応急対策室  
発表第 35 報より

■「愛知県建築物耐震改修促進計画 (あいち建築減  
災プラン 2020)」策定 (平成 24 年 3 月、平成 26  
年 3 月一部改定)

■改正耐震改修促進法の施行 (平成 25 年 11 月)  
・要緊急安全確認大規模建築物 (不特定多数の方が  
利用する大規模建築物等)、及び要安全確認計画  
記載建築物 (都道府県又は市町村が指定する避難  
路沿道建築物、都道府県が指定する防災拠点建築  
物)の所有者に対し、耐震診断を実施し、その診  
断結果報告を義務付け、所管行政庁がその結果を  
公表

■「尾張旭市建築物耐震改修促進計画 (改定版)」策  
定 (平成 28 年 3 月 (令和元年 5 月一部改訂))

■建築物の耐震改修の促進に関する法律施行令の一部  
を改正する政令の施行 (平成 31 年 1 月 1 日)  
・通行障害建築物として建物に附属するブロック塀  
等が追加

■「愛知県建築物耐震改修促進計画 (あいち建築  
減災プラン 2030)」策定 (令和 2 年 3 月、令和 3  
年 3 月一部改定)

■尾張旭市建築物耐震改修促進計画 (改定版)」策定  
(令和 3 年 3 月)

【参考：阪神・淡路大震災の被害状況】

〈人的被害〉

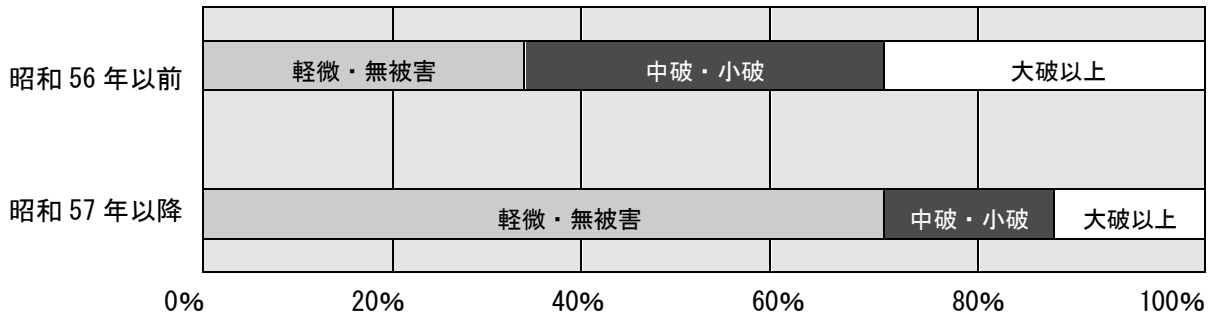
- ・死者数の約9割が住宅の倒壊等によるもの

原因	死者数
家屋・家具類等の倒壊による圧迫死と思われるもの	4,831人（88%）
焼死体（火傷死体）及びその疑いのあるもの	550人（10%）
その他	121人（2%）
合計	5,502人（100%）

平成7年度版「警察白書」より（平成7年4月24日現在）警察庁調べ  
 平成17年12月22日現在の死者数は6,434人、全壊住家数は104,906戸（消防庁）

〈建物被害〉

- ・旧耐震基準で建築された建築物に大きな被害



出典：改正建築物の耐震改修の促進に関する法律・同施行令等の解説（平成18年2月）

【参考：東日本大震災の被害状況】

〈人的被害〉

- ・死者数の約9割が溺死によるもの（岩手県・宮城県・福島県）

原因	死者数
溺死	14,308人（91%）
圧死・損壊死・その他	667人（4%）
焼死	145人（1%）
不詳	666人（4%）
合計	15,786人（100%）

〈建物被害〉

- ・約12万棟は津波により全壊
- ・地震動により被災した建物は、旧耐震基準で建築された建築物に被害が多い

住家被害	棟数
全壊	129,391棟（12%）
半壊	265,096棟（23%）
一部破損	743,298棟（65%）
合計	1,137,785棟（100%）

出典：「東日本大震災記録集」総務省消防庁（平成25年3月）に加筆

## 1. 2 計画の位置づけ

本計画は、「耐震改修促進法」、「愛知県建築物耐震改修促進計画」、「尾張旭市地域防災計画」及び「尾張旭市国土強靱化地域計画」を踏まえ、本市における住宅・建築物の耐震化及び減災化を促進するための計画として策定するものです。

### 【本計画の位置づけ】



### 1.3 本市における地震規模の想定

平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）を受けて、平成24年8月に中央防災会議において、南海トラフに沿った複数のプレートが連動して発生する南海トラフ地震の被害想定が発表されました。

それに伴い、平成26年5月の愛知県防災会議では、東日本大震災を教訓として、これまでの地震被害予測調査を最新の知見に基づいて見直し、愛知県域に与える影響や発生確率、被害規模から対策を講ずべき対象地震として南海トラフ地震を想定して対策を講じています。本市では、平成26年度において市内各所の地質調査データなどを用い、独自に地震による震度や被害の想定を行いました。

被害が予想される地震として、海溝型地震と内陸型地震の2種類に分類されます。海溝型地震として東海・東南海地震連動地震、東海・東南海・南海地震三連動地震、南海トラフ地震など、内陸型地震として猿投-高浜断層帯地震が想定されています。

このうち、海溝型地震として発生確率が高く被害規模も大きい南海トラフ地震と、発生確率は低いものの被害規模が最大となる内陸型地震の猿投-高浜断層帯地震について、被害想定資料が作成されていることから本計画では、これらの被害想定資料を参考として策定作業を進めるものとします。

#### 【震度分布図】

##### 南海トラフ地震（過去最大）

南海トラフ地震（過去最大）では、市全域で震度5強以上の揺れ、一部地域では震度6弱の揺れが想定されています。

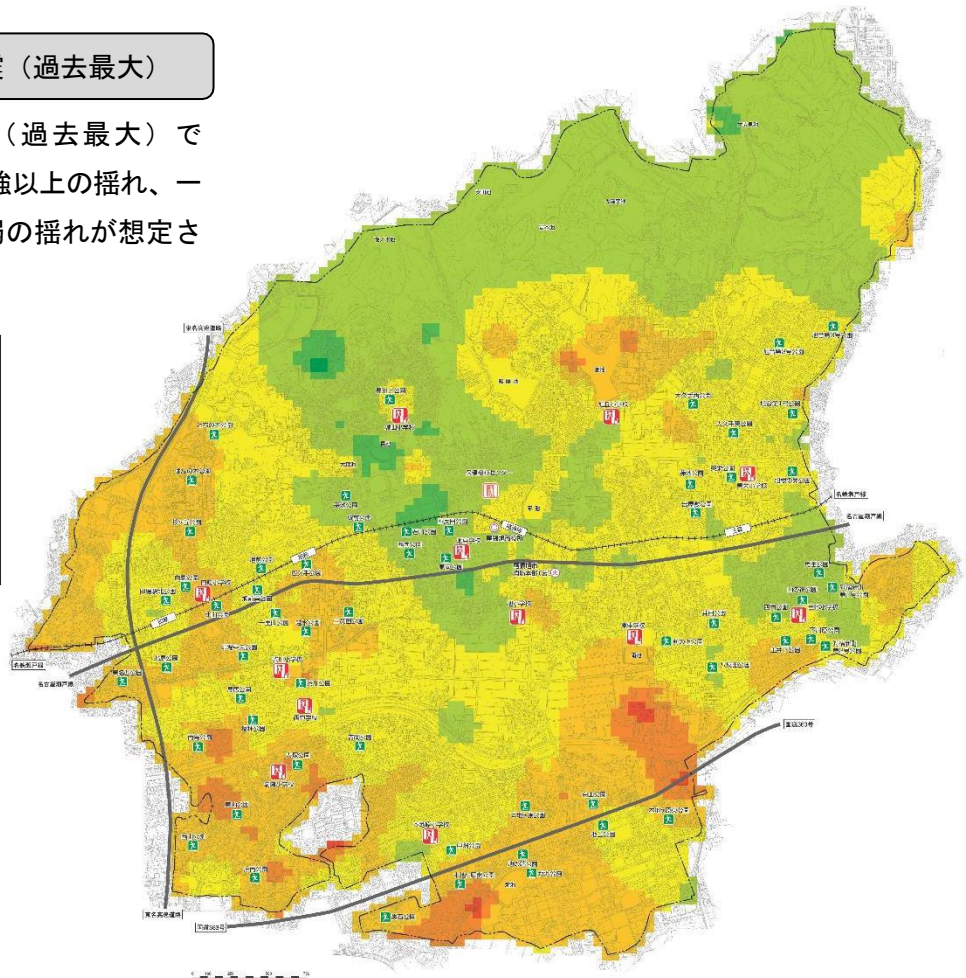
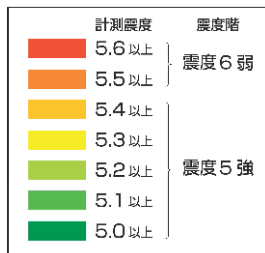


図-1 南海トラフ地震（過去最大）震度階マップ

出典：尾張旭市地震ハザードマップ（平成27年9月）

## 【南海トラフ地震】

トラフとは、深さ 6,000m までの海底のくぼみを意味します。太平洋の水深約 4,000m のくぼみである南海トラフは、海側のフィリピン海プレートが陸側のユーラシアプレートの下に潜り込む場所であり、静岡県の駿河湾から九州にかけて延びています。この南海トラフ沿いでは、過去にマグニチュード 8 クラスの東海地震、東南海地震、南海地震が概ね 100 年～200 年おきに繰り返し起きています。

この 3 つの地震の震源域を中心に広大な範囲で連動して発生する地震を「南海トラフ地震」といい、今世紀半ばまでに発生することが危惧されています。

さらに、昭和東南海地震、昭和南海地震が起きてから 70 年近くが経過しているため、南海トラフにおける次の大地震発生の可能性が高まってきています。そうしたなかで、南海トラフで発生する地震のうち、過去最大といわれる 1707 年の「宝永地震」（マグニチュード 8.6）は約 300 年前に発生しており、その発生間隔はおおよそ 300 年～600 年といわれていることから、宝永クラスの地震をベースとして、1854 年安政東海（マグニチュード 8.4）、1854 年安政南海（マグニチュード 8.4）、1944 年昭和東南海（マグニチュード 7.9）、1946 年昭和南海（マグニチュード 8.0）の揺れや津波高を網羅できるように設定したモデルが「南海トラフ地震（過去最大）」です。

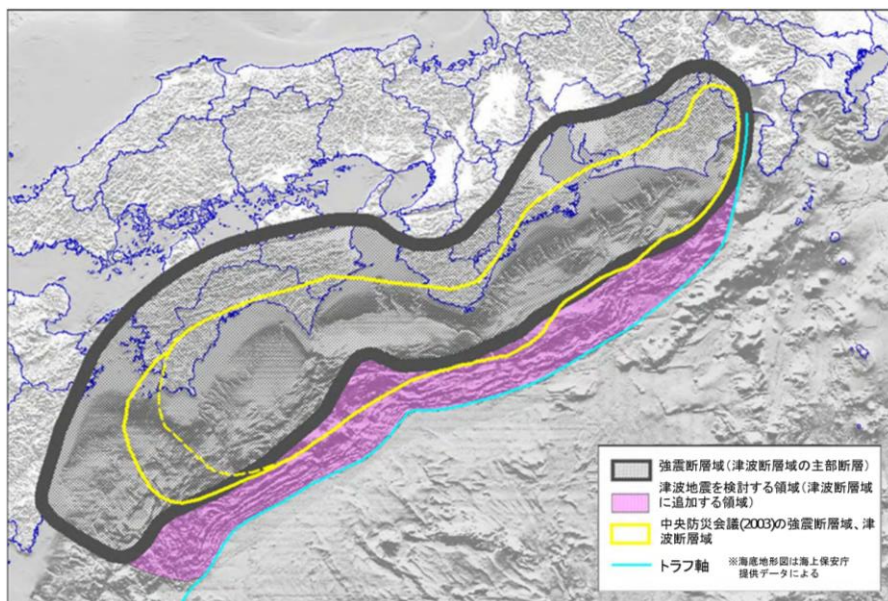


図-2 南海トラフ地震の想定震源断層域

※強震断層域：強い地震の揺れをもたらす領域

※津波断層域：地震の強い揺れは発生しないが、津波が発生する領域

※トラフ軸：一般的には海溝軸と呼ばれる海溝の最深部

出典：南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応のあり方について（報告）（平成 29 年 9 月）

## 【猿投-高浜断層帯】

猿投-高浜断層帯は、豊田市の旧藤岡町から大府市を経て、西尾市に至る全長約 51km の断層帯です。

猿投-高浜断層帯では、全体が 1 つの区間として活動する場合、マグニチュード 7.7 程度の地震が発生すると推定されています。平均活動間隔は 40,000 年程度であり、直近の活動時期は約 14,000 年前頃と推測されます。